会議記録

附属機関の名称	熊谷市自治基本条例審議会
開催日時	令和７年２月１８日（火）　午後１時２７分から２時４７分まで
開催場所	熊谷市役所本庁舎　会議室３０３
出席者	【委員】計５名 濵畑芳和会長、依田悦代副会長、出浦尚明委員、小谷野操男委員、 上村悦子委員 【事務局】総合政策部、企画課職員　計５名 増田部長、田谷課長、服部副課長、萩原主査、水野主査 計１０名
傍聴人	０人
問い合わせ先 （所管課）	総合政策部企画課（市役所本庁舎３階） 電話　０４８－５２４－１１１１（内線５２９）
内容	**１　開会（企画課長）** **２　委嘱状の交付（市長）** 出席委員５名に委嘱状を交付した。 **３　挨拶** **小林市長** 平成１９年１０月に施行された熊谷市自治基本条例は、市民主体のまちづくりを推進するために制定された。本条例の検討段階から参画されている委員の方々、公募委員として参画いただいた方も、これまでの経験を市政運営に生かしていただけることを大変心強く思っている。市政運営には公民連携の取組がより一層重要となっていることから、引き続き御協力をお願いしたい。 **４　委員の紹介** **５　会長・副会長の選出** **濵畑会長** 熊谷市自治基本条例審議会の役割として、引き続き熊谷市を活性化させるために市民の力を結集し、更に発展に結びつけていくことが使命であると感じている。委員の皆さんと活発な意見交換が行えればと考えている。御協力をお願いしたい。 **依田副会長**

	子どもたちの未来を考えながら、市民みんなで連携する取組が必要である。生まれ育った大好きな熊谷に寄与していきたい。 **6　議事** 熊谷市附属機関の会議の公開に関する要綱に基づき、会議の概要を公開することの承認 審議会条例第６条第１項の規定に基づき、濵畑会長が議長となり進行 （1）自治基本条例の推進状況について 事務局から会議資料にしたがって説明 ①協働事業提案制度について ・資料１の２ページ目、（３）について、この制度は、市職員による提案と市民からの提案があったかと思うが、両方合わせた数字という認識で良いか。 →その通りである。 ・新型コロナの影響もあって提案数が減ってきているのではないかと思うが、これまでの提案・採択については、平成２１年からの情報が市ホームページに掲載されている。平成２１年は１２件提案がなされ、７件が採択されている。徐々に減ってきている背景には、採択条件のハードルが高いのではないかと考える。もっと提案しやすいように、そろそろ制度の見直しが必要なのではないか。令和６年度は市職員からの提案が無かったのかと思う。業務多忙の中での提案は難しいかと思うが、もっと市職員も市民も提案しやすいように制度を見直したらどうか。 →市民協働「熊谷の力」事業については、提案から採択、そして事業実施まで、これまで同様、長い時間をかけた制度運用をしている部分と、令和５年度からは、喫緊の課題についてスピード感をもって事業実施にまでもっていく短期完了事業というのを開始し、改善を図っている。一方で、国の省庁が官民連携プラットフォームというのを運用しており、その中で、熊谷市も中心市街地のまちづくりについて国土交通省の指定を受け、まちづくりプラットフォームという団体ができている。既に星川で様々な行事を展開したり、中央公園でイベントを開催するなどしている。市民協働事業とは別で、こうした活動をしてくれている団体もある。 また、市民協働で提案いただいた団体については、短期的な活動だけでなく、継続して実施している団体もある。そういう中で、少しずつ新規提案件数が減ってきているという背景もあると考えている。 しかし、本日いただいた御意見については担当部署に伝え、検討していきたいと思う。 ・市の制度だけでなく、国などによる支援制度を活用して活動している団体もあるという中で、活動している団体やその取り組みについて、

	まとめサイトみたいなものがあると良いのではないかと思う。 行政と連携している活動を周知することで、新たな活動が生まれるのではないかと思う。 ・以前、どこかの自治会で防災ハンドブックというのを作った。それを見た他の自治会の方が、ああいうの良いよねと言っていた。そういったものを紹介することができれば波及するのではないかと考える。 ②市民協働について ・市民協働・促進の観点から、行政と市民がもっとオープンに話し合える場が必要なのではないかと考える。その中で、市民にはこれができる、行政にはこれができる、また、こんな補助金があるといった情報を共有することができる。最近では民間の補助金なども増えてきていることから、申請に当たっての事務的な作業を行政が市民に対してサポートしてくれれば、税金を使わずに活動を行うことができる。 ③職員提案制度について ・市民からの提案とは別の側面として、以前勤めていた自治体では、職員提案制度というものがあった。住民からの意見を聞いて反映させることも重要だが、職員側から気づいたことを提案し、事業改善に努めることが良いと考える。 →職員提案制度については、自分の業務に関わることについてだが、熊谷市でも取り組んでいる。 ・以前だが、市民貢献に係る国のモデル事業というものがあった。国が費用負担を行うため、そういったものに積極的に手を挙げると良いと考える。 ・地球温暖化問題のような長く継続している課題について、職員提案制度により取り組んでみるのも良いのではないかと考える。 ④自治会について ・自治会の加入率が下がってきている。まちなかは特に加入について懸念が生じているので、市の広報誌について、加入していない方にも市の情報が届くように配慮をお願いしたい。 ・市内全域において自治会の加入率がわずかだが下がってきている。自治会への加入は任意だが、新しく転入してきた方にも市の情報がわかるように工夫して欲しい。 →以前から住んでいる方は隣近所とのつながりの重要性を認識していると思うが、新たに引っ越してきた方が自治会に加入しない傾向があるのではないかと推測する。 しかし、何かの際には隣近所とのつながりが必要であることから、「共助」という言葉を今一度市民に認識していただきたいと考える。そのためにデジタルの力も活用し、コミュニティポイント「クマポ」というのを運用開始した。共助が進むよう周知を図っていきたい。

	・江南地区においては加入率６５％という数字になっている。このまま少しずつ減っていって５０％となった場合には、取り返しがつかないと考える。どこかで一斉キャンペーンのような取組を行っても良いのではないかと考える。 ・広報誌などは自治会から配布されなくても市役所に行けば入手できる。そういった面から若い世代を中心に自治会に加入しない世帯が増えていると考える。そうしたことから、自治会に入るメリットを示したり、自治会活動の内容を周知するなど、自治会にも努力が必要であると考える。 ⑤ボランティア活動について ・高校生アンケートの結果を見ると、ボランティア経験が少ないと判断される。もっと若い時期からボランティア活動を教育として経験させ、人と協力し合うことが楽しいと思わせることが大事であると考える。 ・小学校のＰＴＡ活動で、校庭の草取りなどがある。親が参画する一方で、子どもたちに積極的に活動させる方が、ボランティア精神が養えるのではないかと考える。 （２）その他 特になし。 **６　閉会（企画課長）**

※　この会議記録は、熊谷市附属機関の会議の公開に関する要綱第１０条に規定する様式第２号により、作成しています。